

29年2月分 素材生産業者の活動・先行き動向調査

1. 調査実施期間 平成29年 2月1日～ 29年2月10日

2. 調査実施方法

全国の素材生産業者に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。
2月分の回答企業数は9社である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={「増加」の評価を行った回答の割合}×2+{「やや増加」の評価を行った回答の割合}-{「減少」の評価を行った回答の割合}×2-{「やや減少」の評価を行った回答の割合}÷2
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

素材生産動向

品目		29/2月	3月	4月
伐採動向	スギ	20.0	10.0	10.0
	ヒノキ	12.5	12.5	△ 25.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	16.7	△ 16.7	△ 33.3
出荷・販売動向	スギ	20.0	10.0	10.0
	ヒノキ	16.7	0.0	△ 50.0
	カラマツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	エゾ・トド	0.0	16.7	△ 66.7
手持立木在庫動向	スギ	△ 20.0	10.0	△ 10.0
	ヒノキ	△ 16.7	△ 16.7	△ 50.0
	カラマツ	△ 33.3	△ 16.7	△ 33.3
	エゾ・トド	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7

・スギ原木の伐採は3ヵ月連続して増加。ヒノキは2月、3月の増加が、4月は減少。カラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは2月の増加が、3月、4月は減少。

・スギ原木の出荷は3ヵ月連続して増加。ヒノキは2月の増加が、3月は横ばい、4月は減少。カラマツは3ヵ月連続して減少。エゾ・トドは2月の横ばいが、3月は増加、4月は大きく減少。

・スギ原木の手持ち立木在庫は2月の減少、3月の増加が、4月は減少。ヒノキ、カラマツ及びエゾ・トドは3ヵ月連続して減少。

モニターからのコメント

(伐採動向)

- ・国有林の立販間伐を実行中(北海道)。
- ・冬山造材の最盛期で降雪による多少の遅れはあるが、例年より寒さが厳しく土壌の凍結状況は良く、作業効率は良いので伐採はやや増加(北海道)。
- ・スギ、カラマツの伐採は積極的。スギ販売はやや強気、カラマツは強気。スギ立木買い入れは控えめ、カラマツは立木買い入れやや強気も価格高い(東北)。
- ・スギ、ヒノキの間伐がやや減少(東北)。
- ・ヒノキ社有林の伐採やや増加(中部)。
- ・スギを4月、5月に主伐する(九州)。

(出材・販売動向)

- ・出材調整はないが、立販間伐作業は3月中旬までの予定(北海道)。
- ・素材の流通は特に問題はなく販売している。トドマツ小径木に不足感があるよう(北海道)。

(手持ち立木在庫)

- ・2月から手持ち立木の造材に入るの、少しずつ立木在庫が減少する(北海道)。